

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772401952		
法人名	有限会社 ハル		
事業所名	指定介護予防認知症対応型共同生活介護 グループホームはる		
所在地	枚方市船橋本町2丁目85番地の7		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心のバリアフリーを目指す」を理念にあげ介護する側される側の垣根をとりはらうよう努めている 安全で穏やかにゆったり過ごしていただけるよう努めている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、代表兼施設長の母の介護経験を源とし、母の名前の「はる」を冠して、平成15年5月に、2階建ての1~2階の部分に1ユニットで開設した。ホームは、市の自然公園に隣接し、玄関横から広い公園に自由に入出りができる。公園には、桜の木、空を覆う松林の並木道、様々な草花、芝生の広場等が在り、施設が提供した、白い椅子、机が置かれている。利用者は四季折々の季節を感じ、毎日の公園の散歩、外気浴、日光浴、花見等を楽しみながらの、閑静な好環境がある。ケアの重点を、日々の外出支援(代表考案の移乗機能付き車椅子での重度者外出等)、残存(潜在)能力を引き出し(カメラ撮影、電車に自力で乗車、動力ミシンでの裁縫等)生活に意欲と活力を与える実践がある。理念を「心のバリアフリーをめざします」とし、利用者の懐・苦は、職員の懐・苦と捉える「同懐同苦」の実践がある。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心のバリアフリー」を掲げ認知症をその人の個性として受け止め職員は共有し、理念を意識し、実践につなげている	理念を「心のバリアフリーをめざします」として、介護する側、される側の立場ではなく、利用者の懐・苦は、職員一人ひとりの懐・苦と捉える「同懐同苦」の実践の取り組みがある。朝のミーティングでも全職員に理念を確認し、理念の共有を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のつながりは大切にしていきたいが、現在日常的交流は難しいためなかなか参加できなくなっている	代表兼施設長が古くからの地域住民で、自治会を立ち上げた発起人でもあり、地域との密なる交流がある。中学生の福祉体験、老人会、自治会の餅つき大会、区民運動会の見学、公園散歩時の地域住民との挨拶・会話等での地域との密なる交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の日常はなかなか知られていないが自治会に加入し運営推進会議で会長と交流し利用者の支援と理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回年6回開催し現状報告にととまらず自治会長や地域包括の方に情報提供や助言など頂きサービス向上に努めている	平成28年は、年6回開催して、延べ29名の参加があった。参加者は、家族代表、自治会長、地域包括支援センター職員、施設長、管理者等の参加で、事業所の各種の運営全般について話し合い、情報提供や助言を受けて、双方向的な会議を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員をとうして情報提供や色々な助言を頂きながら関係を常にとるようにしている	市の担当者とは相談・情報交換・指導を受けながら協力関係を築いている。毎月1回、介護相談員を受け入れて、利用者の話を聞き、相談に応じてもらっている。運営推進会議時には、地域包括支援センター職員と情報交換をして、それらを、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為やもえない拘束は家族様の理解していただき承諾書にサイン捺印をもらっている	職員は身体拘束をすることの弊害は理解している。1名の夜間せん妄者のベッドからの転落防止のため、安全第一の考えから、家族の了解を得て4点柵をしている。入所間もない利用者のため、玄関の施錠をしているが、利用者の出入りには即応体制を取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症である利用者の不穏など理解し介護職員としてあってはならない虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用していた制度を理解し家族に説明を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に不安は疑問点があるか聞いてそれに対して納得して頂けるよう説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様に意見や要望があればなんなりと申しつけ下さいと常に対処するように努めている	苦情相談窓口を設置し、意見・苦情・不安への対応をしている。毎月「はるだより」を発行し、担当職員が各利用者の「この頃のご様子」の欄にコメントを書いて、家族に日常生活、行事、受診予定等を報告している。家族の訪問時にも意見・提案を傾聴している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝のミーティングなど又スタッフ会議等で個々の意見を聞き日々の介護にいかしている	各種会議で職員の意見・提案等を聞く機会を設けている。運営者、管理者は日常的に職員との意思疎通を図り、良好な労働環境を整え、明るい雰囲気づくりがある。その結果、永年勤続者が多く(76歳で介護福祉士資格取得者)経験豊富な職員での運営がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し個々の努力ややりがいのある職場環境にし向上心をもって働けるよう条件の設備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は出来るだけ参加するよう努めて資格習得も推進し介護に役立てて向上して行くよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会には積極的に参加しサービス向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係者や家族に情報を集め不安なこと本人が困っていることに耳を傾け安心できるよう寄り添いながら馴染みの関係が出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に要望など聞き困っていること不安なことなどなんでも話せるような雰囲気を作り記録に残している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階でご本人と家族様の要望を聞き必要としている支援を見極め相談し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方的な支援ではなく本人の気持ちになってそれに沿った関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方的な支援ではなく本人と家族の絆を大切にし共にご本人を支えていく関係を保てるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切にしてきた馴染みの人や場所を大切に支援できるように努めご友人などの訪問も実現している	利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、従来からの日常生活を確保した支援をしている。親しい友人、知人、親族、ボランティアの人々の訪問や馴染みの公園の散歩、スーパーでの買い物、初詣、市役所等への外出や家族との外出等での支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立せず利用者同士の関係を把握し利用者同士が関わり合い良好で支え合えるよう支援していけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状などの交流や電話等関係を断たないように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望意向を把握し困難な場合は表情や様子を見て推測し本人本位を考え支援プランを検討している	アセスメントシート、介護日誌、日々の関わり、利用者の日々の言動、介護相談員からの情報等から、利用者の暮らし方の希望・意向を把握している。把握しづらい面については、家族から情報を収集して、利用者の自己決定を促がす支援の取り組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの暮らしの聞き取りを行い生活歴や生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の過ごす方を見極め出来なくなったことや不安を察知し心のケアを大切にし穏やかに過ごせるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を元に日々のケアを行い記録し見直したりミーティングなどで話し合い介護計画を作成している	アセスメントシート、診断書、ケアチェック表、健康管理表、介護日誌、居宅介護支援経過まとめ、本人、家族、職員等から各種個人別ケア情報を収集して、介護計画書を作成する。見直しは、職員が記録する介護日誌を基に、居宅介護支援経過まとめを作り、モニタリング表で評価をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングなどで情報を共有し介護記録などを元に話し合いサービス提供に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や変化など家族に伝えその時々生まれるニーズに対応してその時々支援やサービスの提供に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の心身の力を発揮できるよう支援し安全で穏やかに過ごせるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の指示を仰ぎ受診の必要性を家族に伝えかかりつけ医と連絡を取り合い受診時の同行の協力を求め適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重して、これまでのかかりつけ医が継続されている。事業所の協力医療機関での受診を希望する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て受診ができるように取り組んでいる。看護師を配置し、医療連携体制を築いて、日常的に利用者の健康管理を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で急変などに気づいた時ただちに在宅医療や看護師に連絡を取り指示にしたがい適切な受診が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際にはただちに家族に連絡をしカンファレンスなどで情報交換し相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期になった場合医師の指示を元に十分納得するまで話し合い説明を行い支援に取り組んでいる	「重度化及び看取りに関する指針」があり、入所の早い段階から、その時々々の事業所の力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極め、必要に応じて関係者との連携を図っている。看護師を配置し、医療連携体制を構築して、看取りの希望者への対応も整えている。既に、看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は特に行っていないがマニュアルを作成し応急手当の訓練など定期的に行い実践力を身につけていくことが課題である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄など十分だとは言えないが毎年2回職員全員で災害時のシュミレーションによる訓練は行っている	年2回の避難・救出訓練は実施している。代表兼施設長が夜間は事業所内に宿泊しており、自宅も近く、古くからの地元の有力者で、緊急災害時には心強い。地域住民の協力体制もある。スプリンクラーの設置及び備蓄も準備して、安心・安全を確保している。	今後は、年2回の消防訓練の実施報告の適時・適切な届出、勤務体制から訓練に参加できない職員の訓練参加の徹底、災害ごとの(地震・水害・火災等)具体的対策を考える機会を持つ等の取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し傷つけない言葉かけや個人別に馴染みのある言葉かけを行い信頼関係ができる対応を努めている	○JT(職場内での現場指導)を基本として、接遇マナーの訓練を実践している。全職員が対人援助サービスの知識や技術を身につけるように取り組んでいる。人生の先輩に対して、尊厳やプライドを損ねない対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動で本人の思いを感じ取りよう何でも言え気を使わないよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全確保を重視してしまいがちだが一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援をしていきたいと思っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室を利用しているその人に合った髪型にしてもらい時には化粧もしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根取りや手作りギョーザの皮包みも手伝ってもらっている片付けの盆拭きなどは全員見守りは必要だがしてもらっている	「食」は健康寿命の源と捉え、献立、食材の仕入れ、調理の全てが職員の手作りである。検食は職員が行い、薄味、高蛋白、低塩の食事を作る。利用者との協働でのおやつ作りの楽しみもある。利用者と職員が共に食卓を囲み、和気あいあいの家庭的な雰囲気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事の摂取はそのつど記録している 体重測定は月始めに行い記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内のケアを行っている夕食後は入れ歯を除菌につけておき管理している居室対応の場合は介助にて行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を常に見て確認をしているトイレ介助が必要な方には時間誘導している	排泄管理表に時系列に記録された、個人別排泄記録を基に、(本人の習慣も参考に)個人別の排泄パターンを把握してトイレ誘導を促がしている。あくまでも、利用者の自立を目指した排泄支援の取り組みを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便器気味の方には服薬などで調整し食事などでも便通のいいものなどを摂取するようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個人的に週2回行っているのんびり楽しめるようゆったり時間をかけているが時間帯など希望に合わせてられず難しいのが現状である	入浴は週4回としているが、利用者の希望や体調により柔軟に対応をしている。入浴拒否の場合には、日時・職員変更、清拭、足浴、シャワー浴等に対応をしている。菖蒲湯、柚子湯等の楽しみながらの入浴もある。浴場には椅子に座ってシャワー浴ができる機械も設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて対応し安心して休憩がとれるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを個別に管理し臨時薬や変更がある場合朝のミーティングで伝え申し送りノートに記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらったりお盆やテーブル拭きなどをしてもらったりぬり絵や習字などをしたり時には買い物に同伴したりして気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣の公園に出て散歩したり車イス対応の方も外気浴したりしているデイケアの利用をグループホームの車で食事などにも出かけたりしている	利用者の体調や心身状況を考慮して、隣接する自然公園での散歩、お花見、草花の観賞、近隣の人々との語り、外気浴、日光浴等や車での外食等での四季を感じながら、地域の人々とのふれ合いを楽しみながらの外出支援に取り組んでいる。そこには、「生活リハビリ」の視点がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したりなど金銭管理はしない契約であるがお出かけの買い物時には職員が確認し本人の了解のもと支払いできるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた手紙は手渡ししていて返事なども支援している年賀状は手書きで送付している電話があった場合も取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には月ごとに楽しみの予定を掲示したり季節感を取り入れた飾りつけなどで工夫したりしている個人の作品習字やぬり絵なども掲示している	玄関の正面に大きな少女の絵画、季節感のある生け花で心が和む。共用空間の壁には、季節感のある、紙細工、習字、塗り絵等が貼られている。2階には、広い床の間と障子の二間続きの大きな座敷があり、利用者が楽しみながら集える場所がある。キッチンでは、煮物の匂い、食材の切る音で生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室では独りになれ自由に過ごしてもらっている居間では気の合った利用者同士で談話したり思い思いに過ごしてもらっている玄関にイスを置いてのんびり過ごせるようしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた馴染みの物を家族にお願いして持参して貰っている居室には家族の写真などを飾り居心地よく過ごせるよう工夫している床は畳にしている	畳の居室には、馴染みの家具、家族の写真、テレビ、手工芸品が持ち込まれて従来の生活の継続性が確保されている。南側の居室からは、自然公園が望まれ、鳥の声、樹木の緑が観える。北側の居室からは植え込みの樹木や小灯籠が観えて心が和む。スプリンクラーを設置して安全を確保した好環境がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タオルたたみや洗濯物たたみなどもやしの根とりや大きなテーブル拭きなど職員と行っている		